

OMC事務局 〒565-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227  
広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL0720-50-5781

平成11年5月(1999年) No. 401

## OMCニュース400号を記念して

### 仮称「作品研究会」いよいよ来月より定例化

OMCニュース3月号で発表された仮称「作品研究会」を、いよいよ来月より実施いたします。OMC伝統の作品レベルの向上の一翼を担っての事業ですが、OMCニュース400号記念とクラブ創立60周年を記念してのイベントでもあります。

4月例会で関世話役より、会員諸氏の希望を聞かれたら最も希望の多かったのが「編集」でした。一口に編集といってもハード面(編集機材の取扱方法)とソフト面(どのようにまとめたらよいか等、作品の構成にや脚本に近いもの)があり、また作品の内容(記録、ポエム、ドラマ等)にもよります。ハード面のことはお手持ちの機材が皆違いますので、とても研究会のテーマにはなり難く、個別に詳しい方にご指導を受けて機材に習熟していただくほかありませんが、まとめ方等の基本は研究会のテーマに相応しいと考えます。そこで、初回の試みとして「最近の大阪城の周辺を一般的手法撮った映像」をDVテープで参加希望者にお分けして、各自が自分なりに編集してまとめたものを研究会に持ってきて頂く、という方法が採られることになりました(テープご希望の方は早急に関世話役に連絡のこと)。このほど関世話役のご尽力で撮影が無事終了し、配布用テープのダビング作業が行われています。研究会を有意義なものに育て上げましょう。

### 5月例会のお知らせ

5月例会は第4土曜22日、18時より阿倍野市民学習センターにて行います。連休を利用しての楽しい作品など、どうぞご持参ください。作品研究会のことや一泊撮影会のことなどのお知らせもあります。どうか万障お繰り合わせの上ご出席のほどお願いいたします。今月は特別会議室で行います。お間違いのないように。

### 4月例会のレポート

春爛漫の季節ともなると、何かと所用が増えるのか今月は珍しく有村世話役や合原会長等が欠席され、作品数もかろうじて10本の大台を確保するといった状態でしたが、出席者は20名とまずまずの集まり。司会の関世話役がゆったりした時間を有効活用されて、研究会の希望聞き取りなどで結構充実した例会となりました。今月の司会は関さん、書記に安居さん、受付兼照明係に安居良枝さんのコンビで例会を進行しました。

■出席者：岩井、江村、奥、岡本、金子、中尾、関、那須、華岡、藤原、森、松本、森下、前田、増池、森口、渡辺、宮崎、安居夫妻（以上20名） 敬称略

■上映作品（今月の短評は安居利次世話役の担当です）

日付け変更線をこえて 初めての国外旅行(1) 安居利次さん 7分

3月の末から5日間、アメリカ西海岸のラスベガスとグランドキャニオンへ夫婦で旅行した記録。2人でDVテープを10本撮ってきたので、小出しに作品化するつもり。今回は、閑空からシアトルまで。高齢者と障害者のツアーなのに、「添乗員が居ない不安とか、機内でスチュアデスとの会話などのもいれて、海外旅行ものとしては異色。まめに良くカメラを回したものだ」と司会者から、あきれ声。（この調子だといつ終わることやら。）

シアトル空港にて 初めての国外旅行(2) 安居良枝さん 5分50秒

夫婦で交互に作品を作って旅行記録にしていく予定。「シアトル空港 に着いて、ラスベガス行きを待つ1時間あまり、その辺りを撮って、外国人の表情を交えながら、トイレが大きすぎて、足が地につかないとか、自分の感じた事を中心に語るのはいい」が、多分カットが足りないのを誤魔化すために、スローの多用が目につきます。「夫婦でカットの融通はされていると思いますが、構成と表現方法が違うところが面白い」と司会者の弁。

平安神宮の春 那須典彦さん 4分30秒

さすが那須さん、きれいなカットの連続にうっとりしました。天候が曇天だったことが、残念だったようです。青空をバックに桜が撮れたら、もっと、すかっと、した雰囲気が出せたとか。開門と同時に入らないと人で、建物も桜も落着いて撮れないそうです。境内は見張りの人が多くて三脚を立てるとすぐ飛んできて、2000円請求され、許可証のようなラベルつけるとの事です。建物や桜など静物を撮るためには三脚は必需品ですから、全くの禁止よりはいいかもしれません。

京都祇園夜桜に誘われて 森口吉正さん 8分30秒

夜桜を撮るのは難しいです。人出が多いので三脚を使用できない事と、背景によってオートで撮ると勝手にゲインが上がってしまうことです。でも森口さんは夜桜に誘われて出てきた人々の様子を巧みに出しておられました。ただ、花見の雰囲気を出すためか、歌っている人の場面が少し長く感じました。夜のゲイン問題は、いろいろ議論の分かれるところです。光量が足りずオートにしないと人の顔がわからなくなる、のも事実です。一つの案として、夜、人を撮るときは、ライトが、あたって、コントラストが充分ある場所以外では撮らないというのはどうでしょう。

秋吉台の山焼き 宮崎紀代子 3分38秒

山焼きと言うと、火の迫力を連想しがちですが、それに頼らなくても別の雰囲気を出してもいいと思うのです。宮崎さんはお得意の俳句を5句も作っておられるのですから各カットに適した句を強調されたら、しっとりとした作品が出来あがるように思います。そのために、俳句を画面一杯に大きな字でだされる事と、句と句のつなぎに、おっとりした宮崎節をお入れになる事で、俳句ビデオの新しい分野の草分けになられると思うのですが。

**走れSL 夢ふたたび****奥 宏さん****6分06秒**

琵琶湖湖畔を走るSLの勇姿をよく表現されています。発車前の機関車の運転席の緊張感も伝わってきます。仲間5～6人でポジションを変えて、お撮りになりカットを融通されたそうです。機関車に関してベテランの前田さん曰く「石炭を入れる機関助手の年齢を見て一番驚いた。あれは18～9才の人がやる仕事だったのに」と。内容的には、回想画面はいらないのでは。バイオのノンリニア編集ですが、クロールの字に縁取りが出来ないと、かなり大きな字体で背景との差がわかる色でないと後ろの席の人は読みづらいとの声もありました。

**ノンリニアとリニアとの比較****前田茂夫さん****6分20秒**

前田さんが一番新しいバイオのS720をお買いになり、同じカットをノンリニア編集とDVtoDVのリニア編集とを比べられました。理論的にはほんの少し落ちる(ノンリニアの方が)はずですが、静止に近い花でもその違いは画面からは、わかりませんでした。私たちがやっているリニア編集では現実問題、タイトルやテロップをいれる時、アナログ回路を通してあるので、そのカットとの比較も欲しかったと思います。この時は立場が逆転してリニアの負けと出ることでしょう。

しかしノンリニア(多分バイオだけか)にもタイトルに縁取りが出来るソフトがまだ出ていないという弱点があるとか。でもノンリニアの波は、静かに、押し寄せているようです。

**大阪・新スポット 天王寺&梅田****増池 茂さん****8分40秒**

阿倍野のルシアスと観覧車の出来た梅田のHEP FIVEに取材したカットを上手く繋いだ作品。目を見張るカットが数多くありました。特にHEP・FIVEの階上からエスカレーターが何重にも階下まで重なって見える俯瞰カットはハットするものがあります。ただ司会者も言うておられましたが、一つのカットが長すぎて全体としてテンポが出ていません。特に後半BGMのテンポにあわせて、短いカットを積み重ねると盛り上がったのではないのでしょうか。BGMとカットのつなぎ方などは6月から始まる講習会に期待しましょう。

**雪中に祈る****金子博泰さん****6分20秒**

金子さんは本当に五百羅漢がすきですね。個人的にも仏教に関心が、おありのようで、それも修行中の羅漢さんやお地藏さんの姿に魅せられているようです。雪中にたたく石像の幽玄の世界を描くことは、私たちみんなが一度は描きたいと思う題材です。でも難しい。苦しまぎれに、ボタン一つでセンターイメージもセピア色も出きるローランドのV5はつい多用し過ぎてしまいます。こういう題材こそ編集の基礎ですから講習会で勉強したいものです。

**雪ふる****江村一郎さん****3分25秒**

前回の修正版、すごく良くなったと思います。江村調が実に、よく出ています。「雪ふる」というテーマにぴったりです。江村調がよくできれば、それだけ、逆にみんなの目も厳しくなるのか、ちょっとしたところに注文がきます。電線に止まった3羽の鳥のカットがいない、とか、梅の3カットある後のカットが合わないとか、でもお互いに、づけづけ、いいあえる雰囲気はいいものです。江村さんがみんなの意見を尊重されて、やりなおしてこられる人格に敬意を表します。

以上が上映作品の概要ですが、休憩時間後、関司会より、6月より開始される作品研究会の件について会員諸氏の希望や意見聴取などの時間がとられました。参加希望者も予想以上に多く、今から活発な活動が期待されます。

## 作品研究会のお知らせ

今年3月号ニュースで予告のとおり6月からいよいよ作品研究会（講習会）が始まります。それを前に4月例会でどのような講習を希望するか皆さんにお聞きしたところ、最も多かったのが「編集」でした。しかし一口に編集と言っても作品の部類（例えば記録、ポエム、ドキュメントなど）で編集内容も違い、何よりご家庭で使われている編集機器類が、メーカー、方式等により多種多様。限られたメーカーの機材を例会場に持ち込んで実技講習などをしてほとんど成果は期待できません。

そこで皆さんからの提案として出たのが「同一素材をもとに各人が思いどおりに編集し、それを講習会に持参して意見を述べ合う」と言うものでした。

いろいろ問題もありますが、とりあえず第1回目の作品研究会はこの方法で実施することに決まりました。

日時	6月26日（土）午後1時から（6月例会日の昼間）
素材	最近の大阪城とその周辺を一般的手法で撮ったもの。 全50カット。12分30秒。（1カットを15秒間撮影） ズーム、パンニングでは前後に同一場面の静止撮影もあり。 これをタイトルも含め、3分以内に編集し作品化することが条件。
費用	会場費・テープ実費とも1500円。（茶菓つき） 素材テープを求めない方も作品研究会には参加できます。 この場合会場費500円のみ分担していただきます。

5月例会で素材テープ（DVミニ）をお渡しします。ご希望の方は葉書に「素材テープ希望」と書き（電話も可）5月18日までに関までお知らせください。

### ■撮影会6月5日～6日熊野古道のロケハンも無事終了、実行計画進む

このほど2回目のロケハンが関さんと岡本さんのお骨折りで無事終了し、いよいよ実行の運びとなりました。参加希望者を5月例会で確認を取ります。

- 場所：にしむろぐんかみとんだちょうなかへじちやう和歌山県西牟婁郡上富田町中辺路町一帯の熊野古道。  
宿泊：「ピラ・ジョイア」民宿サカイ tel 0739-47-3750（上富田町）  
参加費：2万円（但しJR運賃、昼食代は各自負担）
- ・時代衣装を着た女性を登場させた一寸したドラマ仕立てを想定していますが、適宜自由な構成でまとめられても構いません。
  - ・後日撮影会コンテストを行い、優秀作品は公開映写会で上映。

### ■野村公威さんよりおたより（別掲）

OMCニュース400号記念号を元OMC会員の野村公威さんにお送りしましたところ、別掲の通りのお便りが寄せられました。野村さんはOMCの古い時代のことをよくご存じの大先輩でもあり、このたびの記念号発行ではいろいろと教えていただきました。有り難うございました。

（合原 記）

## 野村公蔵さんへのお願い

合原様

OMCニュース受け取りました。懐かしいニュースで、感無量です。前身のCFC大阪南支部の創立は、昭和33年2月、阿倍野王子神社で創立されました。当時の会員さんで歯科医の田中稔さん。（わたしが8ミリ撮影のお手伝いをしていた方）に確かめました。田中さんの記憶が確かかどうかですが？

わたしも田中さんに誘われて、一緒に入会したのですが、創立時は友人と約束があり途中退席で、記憶が曖昧でした。

3月例会から会員の荻谷副吉さん（岸和田の内科医）の紹介で、会場が阿倍野松虫の阿倍野医師会館に変わりました。私のアパートが阪堺線の松虫なので、会場に一番近く、竹本さんのお手伝いをさせられました。

発会当初の顧問が、竹本正光さん（会計・広報兼任）

沖中陽明さん、

村上 勇さん

岡本良雄さん、

初代会長が、前川一夫さん（竹本さんの友人）

八月頃から私が選曲係になり、作品の題名を見ては、手持ちのレコード持参で、選曲しておりました。テレコはなしの時代。おかげで、レコードマニアだからと、以後は竹本さんや村上さんの作品の選曲お手伝いをさせられ、いや利用されたと言った方が正解です。

創立した年の10月に、私の第1回作品で、ホームドラマ「我輩と彼女」が月例作品で入賞しました。スポークンタイトルにアニメを入れて、ユニークだと話題になりました。内容は凡作ですが……

当時の会費は年会費でなく、出席時に100円で（さくらのWフィルム現像付きで360円？の頃）お茶とお菓子付きです。お菓子は私が時々買いに行きました。若僧で雑用係でしたから……

翌年に川畑さんが入会しました。

昭和35年に2度目の月例最多勝を頂いた時の、トロフィのリボンにライバルの川畑さんや芦名さんの名があります。

一月 さつまの果て 山下 博。二月、真夜中のお正月 川畑健次。  
三月 なし（映写会？） 四月、僕は一年生 芦名寿英。  
5月 ある晩年 川畑健次。7月、3Sに選かれた男野村公威。  
8月 モデルと野郎共野村公威。9月、宇宙でドドンパ 奥野正博。  
10月 上高地の旅情 野村公威。11月 ひとしづく 柴谷郁生。  
12月 なし（忘年会？）

昭和38年に、二代目会長が芦名寿英さん。

会計が川畑健次さん（健二は後年に改名）

芦名さんが会長になったのはよいのですが、例会欠席が多くなり翌年に退会されて、そのあと川畑さんが3代目会長になり、会計が西浦栄治さん、企画他雑用が私になりました。

当時の会員さんで、小林正夫さん（敷島紡績の社長）さくらコン他に金賞や推薦の方がおられました。父親代わりの人生相談でお世話になり。忘れられない人です。

南支部当初のはがきの例会案内や、映写会プログラム、ガリ版になってからの全ニュースは、小倉さんから、川畑さんが亡くなられて記録がほしいと言われて、すべて渡してしまいました。貴重な記録なので、なくなっているのなら、なんとも残念です。

私の8ミリ作品帳、押入の箱から見つけて調べました。南支部からOMCにかけて、例会上映作品が愚作ばかりで、Wからシングルスーパーと98本もありました。機材を含めて無駄使いをしたものです。

仕事の後遺症で、血行障害に悩まされ、体調が悪く、無理をすると微熱が続き、安静を続けています。暖かくなれば楽になると思いますが、創作はすべてお休みで、たまに小説を書く程度で、お茶を濁しています。

野村 拝

関さんの41年発足は違います。顧問の札本映光さんは関係なく、東支部の会長で、関さんの記憶違いでしょう。

## OMCニュース400号記念によせて

岡本至弘

OMCニュース発行400号おめでとうございます。

私が初めて手にしたのは、1984年2月号(221号)でした。おそらく前月の例会に人会したのだろう、新人会の記事が載ってありました。トップニュースは「今年の寒さは格別 …めったに見られぬ大阪市内も白一色の雪景色に見舞われる等今年の寒さは格別との記事……」

以来15年の歳月が流れたことになります。当時は8ミリフィルムの小型映画の全盛時代で、カメラは、フジのシングルZC800、キャノンの814、1014、ニコンのR8など、今でも書棚に眠っております。

8ミリフィルムの時代は撮影して現像に出してから3日~7日かかり、それから編集段階へ、ハサミでフィルムを切ってセロテープでつないで編集したものです。そして編集がおわったあと磁気テープをコーティングしてそれに音声をいれたものです。今思えば大変な苦勞をして作品を作ったものだと思います。

以来映像文化の発展は日進月歩、今やビデオの時代とうつりかわってきました。CカセットからHi8、そしてデジタル時代へ……

編集においては、いろいろな編集機材がでてきて、ひいてはコンピューター編集が家庭でできるようになりました。しかし、まだまだ高価なものが多くなかなか手がができません。

ともあれ、手軽に撮影、手軽に編集という今日、やはり作品の質がとわれようかと思えます。フィルム時代に先輩たちが残されたすばらしいヒューマンドキュメンタリー作品が今や影をひそめたようにも思えます。しかしながら、フィルムでできなかったことがビデオならではの作品が見受けられるようになりました。

テレビ等による映像氾濫時代、映像慣れしている昨今、多人数のスタッフによるプロの作品にはとうていかってありません。アマチュアのアマチュアならではの作品が要求されると思えます。

撮りたいものを撮り、作りたいものを作り、プロにはない能力があるという自信と誇りをもって作品づくりにはげみたいものです。

OMCのビデオ仲間の皆さん、これからもよろしくご指導賜りますようお願い申し上げますとともに、OMCニュース400号発行をお祝いし、OMCの益々の発展を祈念します。

1999年 弥生3月 桜咲く頃

※注：8ミリフィルムを知らない人に誤解のないように付け加えますが、編集は専用のスライシングテープで行います。セロテープに似てますが、フィルムの両面に接着してもパーフォレーションを塞がないように細長い穴が2カ所に開けてある。材質はポリエステル製で丈夫、接着剤も後になってはみ出ないような特殊な材質のノリである。1ロール100カ所用と、太巻きの500カ所用の2種類がある。

(前田)